

へバ、數奇道具ニ候也、拙子宗○林悉拜見申候、

〔南方録三〕茶盃 湖

勢多掃部所持名物也、古キ高麗の皿の如くなりと云へり、休公○休湖と名を付らる、茶杓を削て勢多と名附られしと也、指渡壘十壘目、茶杓十四目半程有しと也、○中其後平目なる茶盃を湖なりとて用ゆ、

〔茶之湯六宗匠傳記四〕鹽桶筒茶碗之事

一鹽桶と云は、茶碗口をえめ付て丸メ、鹽籠に似たる物也、筒茶碗と云は、たけ高くして筒高く、樂焼もあり、染付の内はげ茶碗有、子細は内はげねば茶をすましあしきなり、

〔和泉草二〕臺天目

一天目ニ四段有リ、三段ハ漢也、外ハ和ナリ、ムラカキ、スナガシ、サルホ何モ漢也、和ハシノ天目ト云也、

一建盞ト云天目一通有テ、餘ハケンサントハ云ザル様ニ、世上ニ誤テ云傳也、建盞ト云ハ、天目ノ總名也、

一天目ノ能比ト云ハ、口ノ廣サ四寸ヨリ四寸一二分迄ヲ吉トスル也、筒ノハツタルハ悪キ也、

〔茶道要録主法〕茶盃之事

茶盃其品彙多シ、唐茶盃、高麗瀨戸、伊勢、内焼、イラホ等ヲ專ラ用ユ、尤形恰合ニ因テ好悪アリ、又形ニ付テ名トスルモアリ、南京染付、青磁、ゴスデ、瓏乳ノ手、高麗ノ堅手ハ曾テ不用、薄茶碗、滋茶盃ノ差別ヲ末流ニ云リ、大ニ不用、平メナルヲ夏用ヒ、窄リタルヲ冬用ル事大法也、然共茶盛ニ取合アルガ故ニ、時節ニモ不可拘、體ヲ重ンジ、用ヲ其次トスル事肝要ナリ、釜ハ體ニシテ水壺ハ用茶盛ハ體ニシテ茶盃ハ用、茶盃ハ體ニシテ水滴ハ用、又釜ハ體、烏府ハ用タリ、總ジテ茶碗ヲ能可湯、允